家庭教育通信

1年生になったら 11

第71号 令和2年3月11日発行

いよいよ来月から小学生

思えば、生まれたときの身長の数倍以上になり、抱っこするには重い体重になり、あっという間に幼児期からの卒業が近づいてきました。

学童期と言われる小学生時代、心身ともに大きく変化する6年間はやってきます。これから少しずつ親離れが進み、親の務めも変化していくことでしょう。

いよいよ小学生の親となる皆さんに、今回は、とっておきの心得「こどもへのまなざしは三つの心持ちを理解して」をお届けします。

自由への心持ち

こどもはだんだん自分の世界をもつようになります。自分で決めたことなら長い時間の集中もでき、失敗してもやり直してがんばります。

判断力は未熟とはいえ、感情は豊かになる時期、頭ごなしに「ああしなさい、こうしなさい」では通じません。

こどもは、成長のプロセスで、自力で思考し行動する自由を欲していくのです。その尊い心持ちをつぶさないように育てたいものですね。

力への心持ち

強弱に個人差はありますが、一番になりたいとか勝ちたい、うまくなりたいたいという心持ちは、よい意味の競争心であり活動エネルギーです。

他者と比較してとやかく言うのは間違いのもとですが、信頼する親に、力を認めてもらいたい心持ちは、どの子もきっと密かに持つもの。上手にほめて、力（自分の存在）に自信を育みたいものです。

楽しむ心持ち

小学校で勉強がんばろうと張り切るこどもたちのキラキラした瞳ほどうれしいものはありません。でも「遊びが学び」であった幼児期の学びの原点（おもしろい、不思議、わくわくするあそび心）を忘れないようにしたいですね。石ころ一個、水の流れひとすじでも遊べる「楽しみ見つけ」の心持ちこそ、科学的思考のみなもととなるのです。

これからも一緒にたくさん遊んでほしいと思います。

以上のようなこども理解に支えられた「親のまなざし」。これがあれば、きっと学童期の子育てうまくいきますよ。

皆さんのご家庭のご多幸を祈りつつ、今年度のコラムを終わります。

地域教育課社会教育担当
TEL (3647) 9676